

## 酪農及び肉用牛生産の近代化を図るための基本方針

- 地域の知恵の結集による畜産再興プラン—  
『人・牛・飼料の視点での基盤強化』

平成27年3月

**農林水産省**

## 2. 肉用牛(繁殖)経営指標

	1	2	3	
【経営類型の特徴】	荒廃農地や水田等での放牧により省力化を図りつつ、適切な規模での効率的な飼養管理を図る家族経営	荒廃農地等での放牧やキャトル・フリーディング・ステーションの活用を通じ、省力化と牛舎の有効利用により規模拡大を図る家族経営	分娩監視装置や哺乳ロボットの導入、コントラクターの活用等により、分娩間隔の短縮や省力化等を図る大規模法人経営	
【立地条件】	全国			
【土地条件】	畑又は水田	畑又は水田	畑又は水田	
【経営形態】	家族・複合	家族・専業(1戸1法人も含む)	法人	
【飼養形態】	繁殖雌牛(肉専用種) 30頭	繁殖雌牛(肉専用種) 80頭	繁殖雌牛(肉専用種) 200頭	
飼養方式	牛房群飼 連動スタンション	牛房群飼 連動スタンション 早期離乳	牛房群飼 連動スタンション、哺乳ロボット 発情発見装置、分娩監視装置 早期離乳	
外部化		キャトル・フリーディング・ステーション		
給与方式	分離給与	分離給与	分離給与	
放牧利用(放牧地面積)	放牧(9ha)	放牧(25ha)	—	
【牛】				
分娩間隔	12.5ヵ月	12ヵ月	12ヵ月	
初産月齢	23.5ヵ月齢	23.5ヵ月齢	23.5ヵ月齢	
出荷月齢	8ヵ月齢	8ヵ月齢	8ヵ月齢	
出荷時体重	270kg	270kg	270kg	
【飼料】				
作付体系及び単収	スーダングラス 6,500kg/10a イタリアンライグラス 6,300kg/10a	スーダングラス 6,500kg/10a イタリアンライグラス 6,300kg/10a	ソルガム 6,500kg/10a イタリアンライグラス 6,300kg/10a	
作付面積(延べ面積)※放牧利用を含む	11ha(13ha)	30ha(33ha)	16ha(32ha)	
外部化	—	—	コントラクター	
購入国産飼料	—	—	稲WCS	
飼料自給率(国産飼料)	80%	80%	80%	
粗飼料給与率	80%	80%	80%	
経営内堆肥利用割合	10割	10割	10割	
【人】				
労働	総労働時間 (うち主たる従事者の労働時間)	4,580時間 (1,800時間×2人)	3,490時間 (1,800時間×1人)	9,000時間 (1,800時間×3人)
	補助従事者		1人	
	雇用者	臨時雇用1人		常勤雇用2人
経営	粗収入	2,010万円	3,310万円	8,270万円
	経営費 (うち雇用労賃)	1,210万円 (80万円)	2,260万円 —	5,740万円 (590万円)
	農業所得	800万円	1,050万円	2,540万円
	主たる従事者1人当たり所得	400万円	540万円	850万円
生産性	子牛1頭当たりの飼養労働時間 (現状平均規模との比較)	68時間 (63%)	51時間 (47%)	51時間 (47%)
	子牛1頭当たり費用合計 (現状平均規模との比較)	339千円 (77%)	330千円 (75%)	322千円 (73%)

注：主たる従事者1人当たり所得は、法人等における内部留保等を計算上見込まず、農業所得を主たる従事者数で割って試算。  
生産性の各平均値は、「畜産物生産費」等を使用して試算。なお、肥育牛1頭当たり費用合計には、もと畜費が含まれていない。

(参考)【牛】に関する現状値

繁殖雌牛(肉専用種)の分娩間隔:13.3ヵ月、初産月齢:24.4ヵ月齢、子牛(肉専用種)の出荷月齢:9ヵ月齢、出荷時体重:290kg  
肥育牛(肉専用種)の肥育開始月齢:9ヵ月齢、出荷月齢:29ヵ月齢、肥育期間:20ヵ月、出荷時体重:755kg、1日当たり増体量:0.77kg  
肥育牛(交雑種)の肥育開始月齢:7.5ヵ月齢、出荷月齢:26.5ヵ月齢、肥育期間:19ヵ月、出荷時体重:795kg、1日当たり増体量:0.9kg  
肥育牛(乳用種)の肥育開始月齢:7ヵ月齢、出荷月齢:21ヵ月齢、肥育期間:14ヵ月、出荷時体重:770kg、1日当たり増体量:1.14kg